

NEWS RELEASE

死者の冥福を祈るために作られた仏教美術を紹介する

「^{ついでん}追善の美術—亡き人を想ういとなみ—」展を開催いたします

近鉄グループの文化事業である大和文華館では、2023年7月7日（金）から8月13日（日）まで、特別企画展「追善の美術—亡き人を想ういとなみ—」を開催いたします。

「追善」とは「追って善根を修する」こと、つまり亡くなった人のために、生きている者が善い行いをすることによって、死者の苦しみを除去し、冥福を祈ることを意味します。仏教においては、追善供養のために仏事が営まれたほか、写経が行われ、仏像や仏画が制作されてきたことが知られています。

特に平安時代以降、浄土思想の流行によって、現世を生きる苦しみを自覚するとともに、死後に待ち受ける世界への関心が高まると、個々の信仰に基づいた多様な美術が生み出されました。仏像や仏画などのほかに、持ち主の供養のため、絵巻や手紙といった故人の遺品に、経文や印仏を摺り重ねることが行われ、さらに中世以降には、亡くなった人の供養として肖像画が描かれました。

この展覧会では、いにしえの人々が他者や自分自身の「死」をどのようにとらえ、身近な「死」と向き合ってきたのか、その結晶として生み出された多様な美術品を通して、亡くなった人々の供養をめぐるいとなみをご紹介します。詳細は別紙のとおりです。



重要文化財
六道絵
日本・鎌倉時代
兵庫・極楽寺蔵



重要文化財
笠置曼荼羅図
日本・鎌倉時代
大和文華館蔵



京都市指定有形文化財
渡辺浄慶妙慶夫妻像
日本・室町時代
京都・妙蓮寺蔵

別紙

<1> 展覧会について

1. 名称 特別企画展「追善の美術—亡き人を想ういとなみ—」
2. 会期 令和5年7月7日（金）～8月13日（日）
3. 開館時間 午前10時00分～午後5時00分（入館は午後4時30分まで）
4. 入館料 一般 630円、高校生・大学生 420円、小学生・中学生 無料
5. 無料招待デー 7月27日（木）、28日（金）
※7月～8月の土曜・日曜・祝日は、夏休み（高校生・大学生）無料招待デーとし、
高校生・大学生は学生証提示で無料。
7. 主催 大和文華館
8. 出陳品数 53件

代表的な展示作品 *所蔵先の記載のないものは大和文華館蔵
◎重要文化財 ○重要美術品 □京都市指定有形文化財

【I. 死者に捧げる】

灰陶加彩鴟鵂尊 中国・前漢時代

灰陶加彩駱駝 中国・南北朝時代

塑造武人俑 中国・唐時代

○青磁多嘴壺 元豊3年銘 中国・北宋時代

◎埴輪 鷹狩男子像 日本・古墳時代

◎埴輪 男子立像 日本・古墳時代

【II. 死と向き合う】

六道図 中国・元時代

◎六道絵 日本・鎌倉時代 極楽寺蔵

病草紙断簡 日本・平安時代

十王図 閻魔王 日本・南北朝時代

【III. 救済を求めて】

浄瑠璃寺阿弥陀如来摺仏 日本・平安時代

木造地藏菩薩立像 日本・平安～鎌倉時代

小厨子扉絵 日本・鎌倉時代

春日宮曼荼羅図 日本・室町時代

【IV. 亡き人を想う—追善の美術—】

◎笠置曼荼羅図 日本・鎌倉時代

◎柿本宮曼荼羅 日本・鎌倉時代

◎融通念仏縁起絵巻 下巻 日本・室町時代 禅林寺蔵（会期中巻替あり）

伊勢物語下絵梵字経 日本・鎌倉時代

地藏菩薩印仏 日本・南北朝時代

□渡辺浄慶妙慶夫妻像 日本・室町時代 妙蓮寺蔵

◎婦人像 日本・桃山時代

○前田菊姫像 日本・桃山時代 西教寺蔵

<2> 展覧会会期中のイベントについて

1. 特別講演：「記憶の図像学—亡き人のために、生きる者のために—」

- (1) 日 時 7月30日(日) 14時00分から
- (2) 場 所 講堂
- (3) 講 師 京都市立芸術大学 客員研究員 加須屋誠氏

2. 日曜美術講座：「六道を巡る—極楽寺所蔵「六道絵」の世界—」

- (1) 日 時 7月23日(日) 14時00分から
- (2) 場 所 講堂
- (3) 講 師 大和文華館 学芸部係長 一本 崇之

3. 列品解説

- (1) 日 時 毎週土曜日 14時00分から
- (2) 場 所 展示場
- (3) 解 説 大和文華館 学芸部

※何れのイベントも参加は無料ですが、入館料が必要です。

※講堂の最大定員は100名です(先着順)。

以 上